学習内容報告書 フォーマット

学校名	新島村立式根島中学校
授業者	中里　直、中山静寿保、古庄涼太、土屋　楓、中村裕之

1.　単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1.　単元名

陸と海をつなぐ学習

1-2.　学年

全学年

1-3.　教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間、理科、保健体育、社会

1-4.　単元の概要

1　総合的な学習の時間では、郷土理解学習として、地域の協力を得て、式根島の現状を理解し、未来について考える学習を行っている。その中で、陸地と海をテーマに学習し、陸地と海のつながりを考える。

2　保健体育では、ごみ処理や環境汚染の学習として海洋ゴミについて学習する。

3　理科では講師を招き、川から海に繋がる環境学習を行い、見識を広める。

4　社会科で学習する調査の手法や資料の収集・活用の技能を、総合的な学習の時間で活用する。

5　教員が気仙沼の舞根森里海研究所に行き、森里海連環学の現状と課題を学び、陸と海をつなぐ学習の実践に生かす。

1-5.　単元設定の理由・ねらい

島と海をつなぐ学習として学んだことは、それぞれの教科等の学習に限らず、ESD、ボランティアや防災の学習になる。身近な学習から、環境のつながりを実感することで、生徒が主体的に現状を理解し、未来に希望を抱くことに結び付くと考える。島と海をつなぐ学習の実践をまとめて、学習発表会で生徒が発表し、インターネット等のメディアを通じて発信することで活動の幅を広げていく。また、地域や校外の専門家等とのつながりを大切にし、協働することで、さらに活動を発展させていく。

1-6.　育みたい資質や能力、態度

郷土理解学習を中心として各教科等で森里海連環学と式根島の現状を学び、島と海のつながりについての知識を得て、式根島の環境について理解を深め、持続可能な社会に向けて身近な生活から自分ができることを考える。

1-7.　単元の展開（全３０時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
23	総合的な学習の時間【全学年：郷土理解学習】 つなぐ・つなげる～式根島の未来のためにできること～ 　式根島未来会議は、郷土理解学習として式根島の現状を理解し、地域の方々等と協同して式根島の未来に向けて活動し、郷土愛を育む学習である。今年度は、「観光客を増やすための方法を調べる」、「空き家の実態を知る」、「温泉の楽しみ方を次の世代につなげる」、「後世に残すきれいな式根島をつくる」の４つのテーマに基づいたグループで島の陸地と海について学び、未来につなぐ活動を行う。アンケート等の調査等の活動を行い、発表会で成果を発表する。また、カフェトークを行い、島民とともにテーマに基づいた活動について検討する。	郷土理解学習として行う式根島未来会議は、ふるさと式根島を愛し、自ら考え、課題を設定し、よりよい島づくりに参画する態度を身に付けること、生徒同士、地域の方や関係者との協同の活動を通じ、モヤイの精神（一致団結、協力の精神）をもって他者や社会との関わりもつこと、探究的な学びの中で、計画・立案ができ、臨機応変に調整をしながら実践することを目的として活動した。 外部連携 /島民の協力
1	保健体育（保健分野）【３年：健康と環境】 生活に伴う廃棄物の衛生的管理 　人間の生活に伴って生じたごみなどの廃棄物は、自然環境を汚染しないように衛生的な処理が必要であることを理解する。海洋ゴミの現状を理解し、海岸清掃が自然環境の汚染を防ぎ、廃棄物の衛生的管理につながることを理解する。	保健分野で学んだことを生かし、総合的な学習の時間やボランティア活動で海岸清掃を行い、どのようなごみがあるか調査し、ごみの処理について考えた。 使用教材：教科書、資料集
1	社会【全学年：資料の活用と調査の手法】 　学習を進める中で生じた興味や疑問からテーマを定め、解決のために必要な資料を収集し、活用する技能を身に付ける。	学習を進める中で生じた興味や疑問について、本やインターネット等を用いて調べてワークシートにまとめる流れを習得させた。この方法を総合的な学習の時間や各教科で活用した。 使用教材：ワークシート
1	理科【１年：生物の特徴と分類の仕方、２年：刺激と反応３年：自然環境の保全と科学技術の利用】 水生昆虫から学ぶ川から海につながる環境学習 　水生昆虫が専門である農学博士・元公立中学校教員の竹内義範先生を講師に招き、「人と自然の共生」というテーマでオンライン講演会を行う。現在の兵庫県の川から海につながる環境や水生昆虫の話題から、生態系や環境問題を考える。	ヘビトンボやセンブリという水生昆虫を中心として、最新の水生昆虫の話題、水生昆虫の生態・染色体の研究の話から、兵庫県の川や海の環境と関連付けて、身近な生活環境、生物を中心とした地球環境、生態系や環境問題を考えた。 外部連携：農学博士・元公立中学校教員　竹内義範先生

		 図１　講演会の様子
2	総合的な学習の時間【全学年】 陸地と海をつなぐ環境学習―森・里・川・海を連続させる流域管理― 　陸と海をつなぐ海洋学習について、東京都立大学都市基盤環境学科教授　横山勝英先生を講師に招き、オンライン講演会を行う。工学的観点から陸と海のつながりについて解説していただき、自然と共生できる陸と海の管理方法について考える。事前学習で森里海連環学の概要を理解して調べ学習を行い、講演会に臨む。	生徒は、普段から海に親しんでおり、総合的な学習の時間の郷土理解学習や地域の方々と美化活動で地域清掃や海岸清掃を行っている。また、海水浴場は島内に４か所あるが、国内の他の場所と違わず、海岸浸食が進んでいる現状から、生徒は海岸の管理については関心がある。事前学習で森里海連環学を理解し、課題意識をもって講演会に参加できたので、生徒の理解が深まり、有意義であった。
2	総合的な学習の時間【全学年】 　今年度の活動の成果物としてクリアファイルとステッカーをつくることにより、活動を振り返ってまとめ、成果物を今年度の活動に参加した島民等に配布することや来年度の活動に活用する。 　グループごとに今年度の活動に基づいてクリアファイルとステッカーのレイアウト、図案、記述内容を検討する。決定した内容に基づいて、クリアファイルとステッカーの原稿を完成させる。	クリアファイルは来年度のアンケート等で活動に協力していただいた方に配布すること、ステッカーは海岸清掃でゴミを拾っていただいた観光客等に配布することを意識して作成させた。 図２　作成したクリアファイルとステッカー

2.　学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1.　単元における位置づけ

単元　30　時間中の　27、28　時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目　/ 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2.　本時の目標

「森・里・川・海を連続させる流域管理」というテーマと今年度の式根島未来会議の活動と関連付けて、講演内容から式根島について学び、式根島の未来について考え、来年度の活動に生かす。

2-3.　本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
1　事前学習 講演会を有意義な学習の機会とするため、テーマに関する基礎知識を得て、テーマと関連付けて式根島の海の環境について考える。この成果から、講師への質問を導き出す。 ①森里海連環学の概要説明 スライドにより、気仙沼における実践事例から森里海連環学もついて学ぶ。 ②テーマに基づいた調べ学習 森里海連環学と関連付けて式根島の海の環境について考えたことから、ワークシートを用いて、インターネットを利用した調べ学習を行う。調べ学習の内容から講師への質問を導き出す。 2　講演会 都市基盤環境学科教授　横山勝英先生を講師に招き、テーマに基づいてオンライン講演会を行う。工学的観点から陸と海のつなかりについて解説していただき、自然と共生できる陸と海の管理方法について考える。事前学習の内容と質問を事前に講師に送付し、関連した話をしていただく。生徒は講演内容から考えたこと等を記録し、講師にフィードバックする。	教員が気仙沼で経験した研修内容を紹介することで、森里海連環学の現状の実例を示すことができ、生徒の調べ学習に役立った。 社会科で学習し、授業で実践している調べ学習の方法を応用して実践した。 図 3　事前学習の様子 図 4　講演会の様子

3.　今回の活動の自己評価

総合的な学習の時間において、理科と社会科を融合させた学習を実行できた。森里海連環学は学際的な学習であり、気仙沼を事例とした森里海のつながりに関する科学的な内容について、社会科の調べ学習の手法を活用できたことは、生徒が取り組みやすく、有意義であった。また、事前学習を行って講演会に臨めたことで、生徒は課題意識をもって学習でき、式根島の現状と関連付けて考えることができた。

4.　今後の課題

今回の学習を来年度の式根島未来会議の実践に生かすことで、式根島の陸地と海のつながりについての実感が深まると考えた。生徒がさらに実践を積み重ね、今度は先生に来島していただいて、式根島の現状を視察していただいた上で生徒に講義していただければ、さらに多くの学びが得られると考えた。

5.　本学習内容報告書活用にあたっての留意点

本単元のテーマである「陸と海をつなぐ学習」について、教科のつながりの有効性、基礎的な学習から発展的な学習への流れと内容の分かりやすさを検討した。

※実施した単元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

　フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

　例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。